

晴香園だより

題字 山本健治先生

Let's 和!!
新時代のはじまりに

今年も爽やかな風が吹く秋晴れの中開催。新時代の幕開けと共に晴香園フェスタも少しリニューアル。新たな試みで後援会ブースを設置。卒園生と何かやりたいよねの言葉から出店することが決定。お菓子つかみと魚釣りコーナーで卒園生たちはいきいきと頼もしく感じました。

食品部門では、支援企業様による出店でフェスタをより盛り上げて頂きました。

また遊び部門では初めて企画や準備、当日の出店まで各ホームの職員と子ども達で進めていくという形を取りました。空気砲コーナーでは、ペットボトルに風船のオリジナルの空気砲作りで遊び、ポケモン輪投げや、幼児さんも

大活躍の腕相撲等大盛り上がり。他にも、ヘアアレンジコーナー等子ども主体で出店したコーナーもありました。

中学生中心の共同制作では、ジブリの世界を作り上げました。読書推進コーナーでは、ぐりとぐらのスキレットで作ったカステラや、廃材で作ったロボットカミイ、お気に入りの本を紹介し展示しました。

一人で形にすることが難しいことも、周りの人たちの力を借りればやり遂げることができる。やり遂げたときに何を感じるのか。このフェスタには子どもたちが成長できる要素がたくさん詰まっているのだと、子どもたちのキラキラした笑顔を見ながらそんな

第38号

発行

児童養護施設 晴 香 園
〒270-0011 千葉県松戸市根木内145
電 話 047(345)2722
FAX 047(309)8807
E-mail: info@s-haruka.org



大当たりつれるかな!?

ことを考えさせられました。来年どんな「子どもたちのやりたい!」が聞けるのか、今からワクワクしています。

令和元年のフェスタは、子どもたちを応援してください。たくさんさんの温かな手に支えられ無事終了することができました。たくさんさんのご支援協力本当にありがとうございます。

第七弾

ミヤマクワガタの巻

7月にドリームチャレンジのプレゼンテーションが行われ、今年は9組の子ども達がエントリしました。

中学生のK君は『日本で一番好きなミヤマクワガタを捕りに行きたい』と、プレゼンではクワガタ用のトラップの作り方など事前に調べた情報も織り交ぜながら発表を行い、見事合格しました。8月19日、21日の夏休みに山梨まで行ってきました。

初日に昆虫採集で有名な山梨県韮崎市に向かい雑木林を捜し歩くも見つからず。宿では事前に調べていたトラップを何種類か作成し、「どのトラップが一番とれるか調べて自由研究にする」と熱心に取り組む姿が見られました。3日間で見つけられたのはカブトムシ1匹と小さなコクワガタ2匹。目標が果たせず落ち込んでしまうかと思いましたが、本人は「時期が



レンタサイクル サイコー!

遅すぎたか「来年こそ捕まえる」とすでにリベンジに向けて前向きに考えていました。ドリチャレに挑戦する姿を見て、子ども達の夢へ向けた想い、他者に伝えようとする熱意、そして何よりも最後までやり遂げようとする意志を強く感じました。また、子ども達から「これやってみたいんだけどドリチャレに応募してみようかな」との声をきくことも増え、ドリチャレが子ども達の「やればできる」「ならやってみよう」という自信、あるいは自主性につながるきっかけになっているように感じました。



み〜つけた!!

第5弾 水上スポーツ体験と カレー作りの巻



薪をくべて火を育てる

8月25日、26日にかけて小学生9名で小見川少年自然の家に行き、水辺の安全教室に参加し、水上スポーツの体験をしました。プレゼンでは、代表で小学二年生の2人が行い、みんなと一緒にいきたいと意気込んで慣れないパソコンを使いながら職員とスライドショーを作成し、前日には何度も練習し、プレゼン当日を迎えました。『今回の経験を通して成長した姿で帰ってきます』と意気込み、プレゼンは無事成功。

1日目電車を乗り継いで自

然の家に向かい、到着すると敷地内に流れる川の中にいるエビや小魚に夢中で時間を忘れて遊びました。夕飯のカレー作りでは係の方からの説明を聞きながら引率で行った職員の力をかりずに年長児を筆頭に手分けしてカレーを作ってくれました。

2日目は午前中水辺の安全教室に参加し、午後は近くの川でバナナボートに乗りました。水の中でどのような危険性があるのかしっかり話を聞いて学びました。バナナボートでは男の子はやる気満々で先頭きって体験。途中お茶目なお兄さんたちによりボートから落とされても全く平気な顔で楽しそうな笑い声。その姿を見た女の子たちは少しびり気味でボートに乗り込み。男の子からより姿勢を低くすれば落ちないというアドバイスをもらい、必死にボートにしがみついている姿がとても可愛らしかったです。

今回参加した子の中には川に入ることに対して苦手意識があった子もいましたが、全員が体験することができ、成長した姿をたくさん見せてくれました。

夏の思い出

今年の夏は、職員と子どもたちで楽しめる夏のイベントをたくさん計画し、実施しました。その中での一部をご紹介します。

竹で流しそうめん

普段なかなか体験できないようなことをこの夏休みにと決め、8月16日、竹を使い流しそうめんを行いました。

子どもたちも準備している段階から、「これ本物の竹?」「早くやりたい」などと興味を持っていました。外で行う予定でしたが台風が来ていることもあり、急遽食堂を使用し各ホームごとに実施しました。そうめんが流れてくる上の方に構えている子や下の方に流れてきたのを食べる

子など子どもたちは工夫していました。

そうめんをたくさん取ろうとする子どもや、たまに流れてくる数量限定の季節のフルーツ、トマト等を拾うために必死に流れてくるのを待っている子どもの姿や大きい子が小さい子に取ってあげるなど優しい一面も多く見られました。

片付けを職員でしていると、有志の子どもたちが片づけを手伝いに来てくれました。重い物を持つてくれる子や落ちてしまったそうめんを綺麗に拾ってくれる子など、子どもたちの優しい姿も見られました。またやる機会があれば、外で竹を使い更に長く大人数でやれるととても盛り上がるのではないかと思います。



はやく〜!! たまごまだ??

小学生のナイトウォーク

8月23日、深夜1時、みのり台駅付近、雨がぼつぼつと落ち始めた。『あと、どれくらいで着くの?』と、手をつなぎながら歩いていたR君。同じ質問に答えて、まだ2分もたっていない。つないだその手にはほとんど力はないが、R君小学4年生の歩調は力強く響いていた。すぐ後ろに、小学1年のH君が遅れないようにいついてくる。『がんばれ! 次の休憩場所まではあともう少し!』と励まし、R君の左手を強く握った。それから約2時間後、小学生6名、職員6名、全員無事に晴香園に到着した。歩き始めてから8時間20分が経過していた。安心と達成感、疲労と睡魔に包ま

れる中、『もう終わっちゃった。今度は筑波山から歩きたい!』と小学2年生のCちゃん。子どもたちの挑戦は始まったばかり。

実は、夏休みのビッグイベントとして、『第一回晴香園ナイトウォーク大会』を実施しました。スタートは、スカイツリー!! スカイツリーから、歩いて晴香園に帰ってくる! 挑戦者となる子どもたちは『やる! やってみたい。』『おもしろそう!』とやる気満々。

この企画の趣旨は、『限界に挑戦する勇気』『お家に帰る喜び』『大切な仲間』です。また、自分が歩いてきた距離(自分の力)を確認できるように、遠くからでもスタートした場所がわかりやすい『東京スカイツリー』にしたことにも理由があります。それは一歩、一歩の前進の積み重ねによって、その子が想像もつかなかった自分の力を実感できるようにするためです。

職員も多く、その甲斐もあって一人も怪我をすることなく全員でゴールすることができました。当日、途中から合流してくれた職員やまさかの差し入れサプライズで応援に駆けつけてくれた職員もいました。この挑戦は一人一人の子どもたちにとって、大きな自信や喜びにつながったのではないのでしょうか。そして、人生でつらい思いをしても、スカイツリーを見るたびに今日の日を思い出すことができたらしと願っています。



イエーイ!! あとどれくらい??

イレギュラーの マウンテン クラブ



芝生でのんびり

10月に勝浦の鵜原理想郷へ行ってきました。当日の朝まで大雨で、電車は運休や遅延で到着は予定より大幅に遅れてしまいました。待てど暮らせど来ない電車を肌寒いホームでじっと待っていたり、到着後にゆつくり食べる予定だったお昼ご飯を急遽駅のコンビニで買って立ち食いしたり...イレギュラーだらけだったにも関わらず、子どもたちは騒いだり文句を言う事も無く「(山岳会の方)もう着い

てるのかな?」「雨止んで良かったね。マウンテン中止にならないで良かった」と前向きな発言。今回参加の4人はもう何度も参加している猛者たち。こんなにも頼もしくなっていたのだなと感慨深くなりました。台風のこともあり、今回は悩みに悩んで決行にしましたが、子どもたちがここまで楽しみにしているマウンテンクラブを中止にしてしまわなくて良かったです。

滞在時間が短くなってしまいました。山岳会の方たちのおかげでハイキング、海の博物館、海辺の遊びと充実した時間になりました。ハイキングでは雨の後で足場の悪い中、お互いに注意しながら大きな怪我無く楽しむことができました。特に最年長6年生のSちゃんは、リーダーとして他の子たちに「そこ危ないから気を付けて」「走ると危ないから走らないで」と声を掛ける姿が見られました。縄文時代の遺跡が発掘されたという話から、最近鉱石がマイブームな4年生のTくんは、黒曜石の話を目をキラキラさせながらしていました。博物館では運良くツノシマクジラの特別展示が行われており、ジンベイザメに魅了されているSちゃん

は特別展示をはじめとする、いくつものクジラの展示を興味津々な様子で見つめていました。最後に少し海辺で遊ぶ時間を設けま

した。5年生のTくんと4年生のHくんは海に来るのは初めてだと大はしゃぎ。長ズボンを限界までめくりあげ、浅瀬を走り回ったり海藻を拾っては大きさを競り合ったりと、ハイキングの疲れを全く感じさせないほど全力で遊んでいました。Hくんは帰り際に「今度は海で泳いでみたいな。来年はここに泳ぎに来よう!」と来年の目標を立てていました。ハイキングでは景色や広い芝生に大はしゃぎしながら、博物館では骨や貝殻に触りながら、沢山の遊びの合間に山岳会の方々のお話を聞くことで学びの多い貴重な体験になったと思います。



海で泳いでみたいな~

学び方

—家庭教師—



晴香園での基本目標の一つに、「学ぶ力を高めます」があります。その手段として、今までは各ホーム内での職員による学習指導の他に、①学習ボランティアの方々の学習指導 ②学習塾の教員の方の派遣による園内での学習指導 ③園外の学習塾への通塾を中心に行っていました。

新年度に入り、一人の児童が家庭教師による学習指導を希望しました。前例のない事ではありましたが、子どもが自ら考え自己決定をしたことを尊重し、現在その子どもは週2回家庭教師の個別指導を受けています。

今年度、学習支援を担当する係では、さらなる学習資源を探す作業を進めています。過去には、様々な学習方法を試した結果、期待されるような成果が得られなかったものもありました。しかし、それらは新たなことに挑戦し、よりよい学習環境を獲得するためには必要な事とも考えられます。なぜなら、

その過程でトライアンドエラーを繰り返す事が、経験となり知識となるからです。それらを経て、将来的には支援の質が向上し、効果が得られる可能性も出てきます。

過去を振り返れば、高校生による通塾も、ある一人の児童が大学受験に向けての想いの下に、それを職員にプレゼンテーションをして勝ち取ったものです。それらの第一歩が、後に続く後輩たちの道しるべとなり、今では多くの高校生が学習塾や予備校で日々学習に励んでいます。そして、高校卒業後の様々な可能性を模索している姿も見られるようになって来ています。

さて、今回の主役である家庭教師による個別学習を始めた児童ですが、利用開始前に本人がたくさんの資料の中から、気になった数社の家庭教師会社の職員さんと面談をし、自ら選びました。しかし、利用開始時には、教師の数が足りずに、急遽他社への変更を余儀なくされました。そして、学習開始前は集中力に自信を持てずに、学習時間の長さに不安を漏らしていた児童でしたが、実際に学習が始まると、先生

から集中力があると高い評価をもらえるほど、頑張っています。

高校受験のプレッシャーは子どもにとって相当の負担です。その中で、自分の希望と能力を加味して決断を迫られることは、とても酷ではあります。その分成長できる機会に違いありません。進学、就職、様々な場面で戦っている力を身に付けて、より希望に沿った将来へ向かえるように、今後も環境面での支援を続けて行きたいと思っています。

晴香園後援会

「晴香園後援会」発足からはや12年目を迎えています。

当時高3だったAさんとS君。学校ではトップの成績でありながら進学の夢を諦めざる得ない状況にあるという事を知った何人かの大人たち——

放つとくわけにはいかない」と後援会設立に向けて動き出しました。

時はすでに秋。会則の検討等何回も集まりを持ち、翌年1月設立準備会。3月設立総会とこぎつけ……一人の進学に間に合ったのでした。

その後安定して支援を続けるために「晴香まなび基金」を立ち上げ、以後専門学校や大学進学を希望する全員の支援を続けて来ましたが、全員という事は100%という事——

これは会として誇っている事だと思います。

この春、松戸在住だった方から、この「晴香まなび基金」に大変高額なご寄

附があった事が「晴香園だより第37号」に載っていました。

これは「晴香まなび基金」がすでにあり、十年余に渡って実績があった事が選定の大きな理由になったのではと思います。

この御寄附には本当に驚きそして本当に安心しました。

12月2日の今年のフェスタには、園を旅立った子達の半数の参加がありました。この中にはお母さんになった二人が子連れで参加……。また、「私、誰か分かる？」と語りかけられてもすぐには分からない程すきに变身の人も……。

夢をあきらめないで ～後援会の役割～

晴香園後援会 理事 柴田 和子

これは会として誇っている事だと思います。

この春、松戸在住だった方から、この「晴香まなび基金」に大変高額なご寄



後援会ブース初出店

みんな社会に出ていろいろな困難にぶつかったりしているのではと思いますが、この日ばかりはみんなはじけるような笑顔で再会を喜び合っていました。そして今年初めての試みの「後援会ブース」の縁日コーナー全面的に担当してくれたのでした。ここまで来られたのは後援会のご支援の賜物——。

小さな力も集まればこんな大きな力になる——と希望が湧いてきます。

今後とも、共に子ども達の現在と未来を暖かく見守っていきたいものとあらためて思っているところです。

■ 晴香園だより第37号の訂正について

晴香園から8月初旬、関係者の皆様、後援会員の皆様にお送りいたしました、「晴香園だより第37号」において、左記のとおり一部誤りがございました。ここに詫言ひ申し上げますとともに、訂正させていただきます。誠に申し訳ございませんでした。

《訂正内容》

6 頁 【後援会への想い】

正 晴香園後援会 副会長
安井 博子

誤 晴香園後援会 会長
安井 博子

新規会員ご入会 継続会員費納入
ありがとうございます。

新規会員ご入会及び継続
会員会費納入ありがとうございます。

お名前に誤字、脱字、記載
漏れがありましたらお詫言ひ申
し上げます。また、その旨の
ご連絡を頂きたくお願い申し
上げます。

（今号では、令和元年7月1
日から令和元年10月31日まで
に、ご入会の方及び会費を納
入いただいた方を掲載させて
いただきました。）

（敬称略・順不同）

【新規会員】

新井 自由里 金子 美代子
王道家 上原 淑子
城野 公正 佐南谷 雅枝
吉原 美奈子 (有)清水商事
中沢乳業(株) 中沢 静男
海野 典夫 松林 淳子
【継続会員】
木元 淳平 松井 秀文
文入 加代子 木成 洋一郎
北條 秀明 山田 敦子

衣川 裕之

(株)ユーライフ 中矢 邦生

(株)ライズ

(株)押尾保険事務所

(有)カモ川ライフサービス

スクールIE小金原校

石山 智 安川 満

岩橋 明 吹上 洪

島田 美里 中嶋 洋子

猿渡 英明

晴香まなび基金で寄付
ありがとうございました。

三石 治子 東 秀隆

カンダ タカヨシ

堅山 景子 浅川 文雄

サントレーディング

心温まるご厚志
ありがとうございました。

言の葉会 城野 公正

(株)八洋 嘉数 義克

匿名 オガワ ヨシオキ

公益社団法人柏青年会議所

理事長 秋元 智絵

四街道市民生委員

日本聖契キリスト教団イン

ターナショナルフェローシッ

プ アーティフィシャルフ

ラワーワークシヨップス

タッフチーム

福祉ネットワーク水の輪

三原 立子 島根 明

須藤 勝

みらいの子供達へ

セカンドハーベスト・ジャパン

藤原 志穂路

山崎製パン 松戸工場

松戸遊技業防犯組合

田代 三和子 吉野 高宏

黒川 陽平

マルハン松飛台

日向 恵子 中村 康子

佐々木 雅子 上原 淑子

チュチュアンナ

齋藤 三雄 坪屋

(株)徳洲会 竹林 央人

福山 直樹 小峰 正行

キコリーナ松戸店

木内 綾乃

ボランティアのご協力
ありがとうございました。

○学習ボランティア

柴田和子 田中里奈

小林由美子 小林陽子

猿渡英明 相澤礼美

野田 恵子

○遊びボランティア

松田 瑞樹

○読み聞かせボランティア

深山 喜子 高橋 千尋

湯本 佳子

○ピアノボランティア

石井 美和

○花ボランティア

NPO法人Imagine

副理事長 山下 緋沙子

松戸更生保護女性会

○幼児リトミックボランティア

黒田 静江

○誕生日ケーキプレゼント

オペラ座

令和元年
12/28[±]
開催

もちつき大会 のお知らせ

開催時間 10:00～正午
※雨天決行
会 場 晴香園 中庭

日頃お世話になっている後援会員の方々と
との交流を深めること、そしてもちつきと
いう文化を子どもたちに食育の一環とし
て伝承していくことを目的にしています。



漬物汁

ずんだ

大根おろし

納豆

のり

きなこ

お餅 あんこ

おしながき

お手伝いの方を募集しております。

当日のお手伝いをしてくださる方を募集しております。
お手伝い頂ける方はご連絡ください。
よろしくお願いいたします。

連絡先 平日9:00～17:00

TEL 047-345-2722

後援会へのご寄付について

※法人会員 年会費5,000円以上
個人会員 年会費2,000円以上でお願いしています。
みずほ銀行 北小金支店
□座番号 普通 3003235
□座名 社会福祉法人晴香（後援会口）

まなび基金へのご寄付について

みずほ銀行 北小金支店
□座番号 普通 3003243
□座名 社会福祉法人晴香（まなび基金口）

※寄付金に関する詳細は、下記にお問い合わせください。

〒270-0011 千葉県松戸市根木内145 社会福祉法人 晴香

TEL.047-345-2722 FAX.047-309-8807 E-Mail: info@s-haruka.org

編集後記



来年のオリンピックピックへの盛り
上がりを見せ始めた今日。私の
ホームでもラグビーなどの話題
が豊富に飛び交っていました。

日本人初のNBA1巡目指名
を受けた八村塁選手や、リアル
へ移籍した久保健英選手のプレー
を楽しそうに話す子ども達の目は、
なんだかとても生き生きとして
いてこちらも元氣付けられたも
のです。しかし一方では、地震災
害や児童虐待などの報道が連日
続いており、今でも生活に苦し
んでいる人がいるという事は深
刻な問題だと受け止めています。
被害にあった方々へは一日でも早
く穏やかな生活を取り戻して頂
きたい。そう願っています。

最後に、平成から令和に移り
変わりスタートしたこの年も残
りわずかですね。「終わりよけれ
ば全てよし」という言葉がどな
たにも通用するかは分かりませ
んが、やりたい事や、やり残し
た事がある方は今からでも行動
に移してみたいかがでしょう
か？もしかしたらその一歩が来
年への一歩に繋がるかもしれま
せんね。

広報担当 永瀬 三浦 大塚